

# 信州佐久穂町十石峠 抜井川ボルダー Ver2.0

令和5年(2023年)6月1日 rctK

以前2015年秋、十石峠近くの佐久穂町を流れる抜井川にあるボルダーを登って紹介した。

その後十石峠越えをした際に、少し上流にもボルダーの存在を確認でき、2019年の土石流災害前に幾つかのボルダーをトライした。しかしその後、谷筋は土石流で壊滅的被害を受け、消失したボルダーもあって荒れ果ててしまった。

今回十石峠を越える機会があったので、状況確認の意味合いもあり前回未トライだったボルダーをトライしてみた。一応まだ遊べる状態だったので、前回と今回の記録をまとめて紹介する。

このボルダーは、佐久穂町から武州街道(R299)を十石峠へ向かい、古谷ダムから乙女の森、そして乙女の滝がある溪谷部分を過ぎたところとあり、また群馬県の上野村から十石峠を越えて降りて行った場合も廃屋状態の佐久造林小屋が目印となる。下流のボルダーは道路の対岸に見えるのだが、上流のボルダーは「佐久造林小屋」の近くの溪谷の中とあり、R299号から川に降りたところで、車を降りて確認しないと分かりにくい。

トライに当たり大量の苔を落とし、下地も整備したが、暫くするとまた苔に覆われることは確実で、下地も荒れてしまうと思われる。

岩質は礫岩で脆い部分がある。ホールドが欠ける可能性があるのでクラッシュパッドは必ず使用した方がよい。

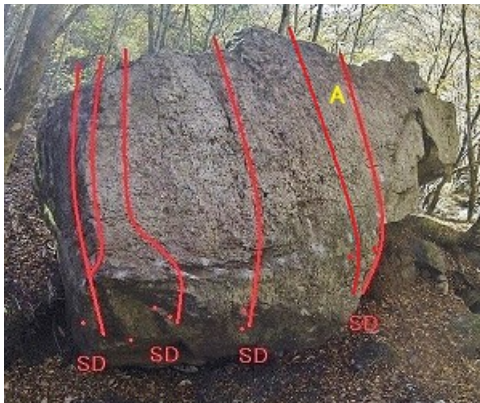
シーズンは春から秋までだが、苔の多さから判断すると、夏は結露が酷いと思われる。

駐車は車道の広くなった所や造林小屋の入り口に可能である。

話は別だが、何故このような川の上流部に、丸い礫の層が入った岩があるのか非常に不思議である。大昔の浅間山当たりの火山灰で固められてできたのか、それとも何かの地殻変動なのか、地質学者に尋ねてみたいところではある。

## 《課題紹介》

●下流のボルダー(2015年に紹介したボルダーだが、その後土石流被害で上流部の取り付きは水没し、下流部の下地は荒れてしまった)

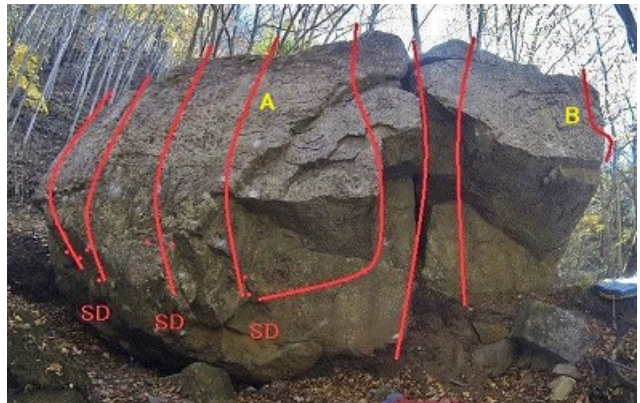


○上流面 & 正面(川側)

Aと正面のAは同ライン。

一部脆い部分があったので落とした。

Bと下流面のBは同ライン。下流側の感じから相当脆いことが予想されたが、苔を落としてみると、予想に反して意外とホールドは確りしていた。クラックの両サイドのラインはクラックの縁は使用しないという限定あり。



○下流面

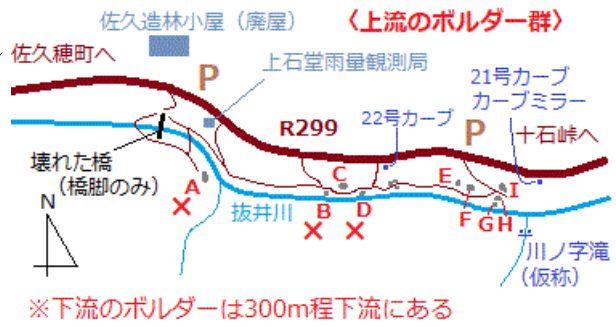
ただ礫が張り付いているという感じのフェイス。トライ中に何度もホールドが剥がれて、何とか登れるようになったが、今後も剥がれる可能性は大である。





## ●上流のボルダーク群

2019年の土石流被害を受ける前にトライしたボルダーだが、未トライだった最後の岩を登る前に甚大な被害を蒙り、幾つかのボルダーは壊滅またはトライ不可能となってしまった。



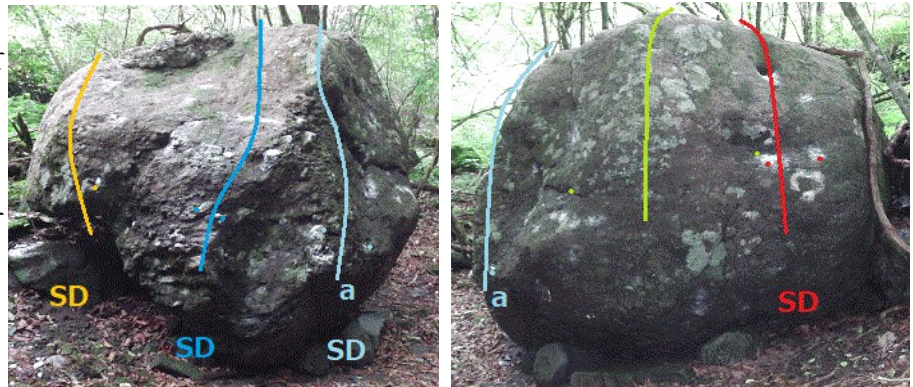
## ○A岩&B岩&D岩

地図上で「×」を付けたボルダークで、これらのボルダークは土石流で壊滅してしまい現在トライは不可能である。

## ○C岩

適度な大きさとホールド、そして安定した下地で落ち着いたトライできる。

初トライ後数年が経過しているので、大分苔が発達してきている。



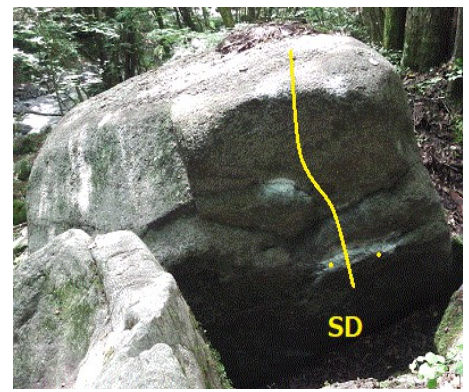
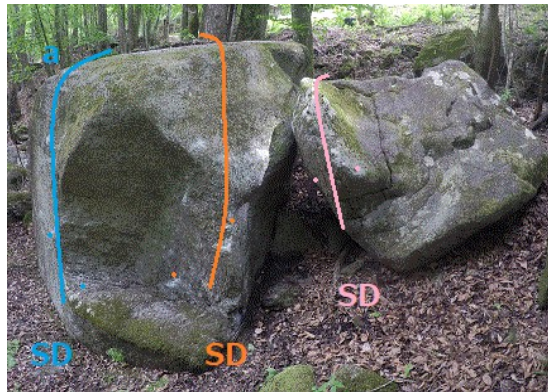
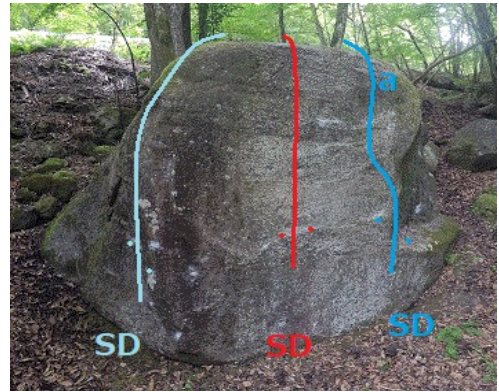
## ○E岩&F岩 上段左:E岩 上段右:F岩川側左 下段左:F岩上流側 下段右:F岩山側

E岩はF岩の下流側にある山の斜面下の小さな岩。

ハング越えのSD課題が1つある。

F岩は大きめの岩で川側の下地がジメジメしていることがあり湿気が高いので結露しやすい。

SD課題が何本もあり、特に難しい課題はないが、礫岩のため岩の上部まで行くと、ホールドが欠けないかちょっと心配になる。



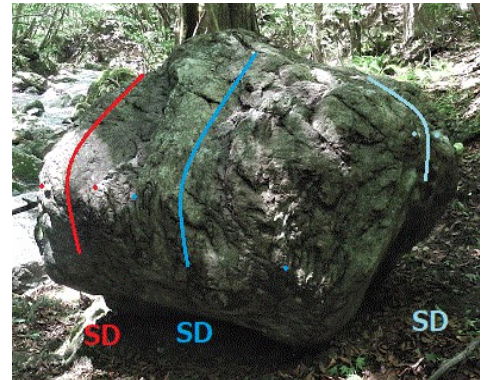
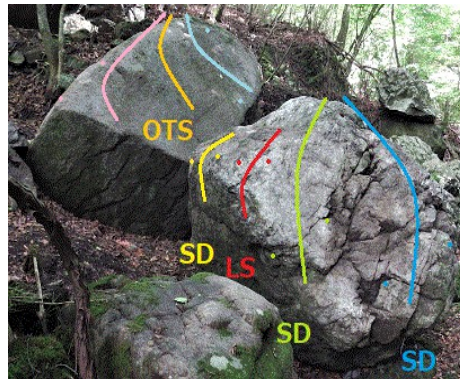


○G岩&H岩 左:G岩とH岩(奥側) 右:G岩上流側

G岩は硬砂岩?のような背の低い岩でSDスタートで適当に限定して遊ぶ。

土石流で少し埋まってしまった課題もある。

H岩は礫岩でスラブをスマアで登る。



○I岩

車道の駐車スペースから荒れた作業道を入って行ったところにあるチャートのような感じの岩で、川から離れているので乾きは良い。古い作業道を挟んで、丁度H岩の上あたりになる。

赤ラインがそこそこ面白い。

